

平成25年度 第1回京都市保健所運営協議会 摘録

平成25年8月9日(金)
午後1時30分～午後3時30分
ロイヤルホテル&スパ 麗峰

○ 出席者

関係団体代表委員 京都府医師会 : 藤田 克寿 京都府歯科医師会 : 葉山 義則
京都府薬剤師会 : 茂籠 哲 京都市保健協議会連合会 : 今西 恒子

各保健センター 北 : 田中 嘉人 上京 : 林 鐘声 左京 : 欠席
代表委員 中京 : 欠席 東山 : 中嶋 毅 山科 : 谷川 守正
下京 : 中西 重雄 南 : 宮脇 義隆 右京 : 齊藤 憲治
西京 : 赤星 平直 伏見 : 三上 茂文

各保健センター 北 : 西村 由美 上京 : 増永 淳三 左京 : 小堀 利行
健康づくり推進課長 中京 : 佐伯 隆 東山 : 東 美佐枝 山科 : 植西 則夫
又は担当課長 下京 : 加賀山 廣 南 : 相宗 佳彦 右京 : 安藤 えつ子
西京 : 小谷 きぬえ 伏見 : 見原 和雄

<事務局>

保健衛生推進室 土井京都市保健所長, 石田京都市保健所次長,
伊藤担当部長, 土井担当部長, 木村担当部長
保健医療課 杉浦課長, 山本係長, 石田
医務審査課 細見課長

○ 議題等

1 京都市保健所等運営協議会副会長の選任について

京都府歯科医師会 葉山義則 委員を副会長に選任

2 平成25年度京都市保健所等関係予算概要について

…杉浦課長から資料に沿って説明

藤田会長 : 予算総額が減っているが, 少子化の影響によるものなのか, 京都市の財政努力によるものなのか, どのようなものか。

石田室長 : 1つには, 本市ではがん対策等の各種検診事業を実施しているが, 実績見合いで査定が入ったものである。

また, 市立病院機構運営費交付金も大きく減っている。(市立病院は) 病院であり, 独立行政法人化もしているので独立採算が原則であるが, 市立病院は政

策的な医療をやっており、例えば感染症対策や高度医療であるが、それらは基本的に不採算部門であり、京都市から（予算を）繰り出している。（それが運営交付金であるが、）病院として経営努力をして赤字部分が減ったので、繰り出す金額が減ったというものである。

藤田会長： 目玉の動物愛護センター（仮称）とはどのようなものか。

石田室長： 現在、南区上鳥羽公園の近くに家庭動物相談所があり、捨てられた動物を保護して、できるだけ市民へ譲渡するような取組をしている。その建物が老朽化しているため、上鳥羽公園の一部に建物を移設し、ドッグラン等の犬猫と市民がふれあえる施設を整備することを検討している。

また、関係法令が改正され9月から施行されるが、人と動物との共生という考え方がベースとなっている。また飼い主の終生飼養が強く打ち出されている。そのようなものを体現しようと考えている。

さらに、けがをした犬や猫の夜間診療（犬猫の緊急夜間診療）も実施しようと考えており、平成26年度の開設を目指して早くに着工したいと考えている。

谷川委員： （予算の）差額説明についてよくわかった。我々としては、今年度の決算額を表示していただいた方がわかりよいと思うので検討願う。

石田室長： 予算は市会での議決が必要であり、また、決算は市会への報告が義務付けられているもので、公開もされているので、次回からは資料に表示することも可能と思う。

3 事業説明

(1) 京都市民健康づくりプラン（第2次）の策定及び市民シンポジウムの

開催について

…杉浦課長から資料に沿って説明

田中委員： 資料の最後の方の「定期的な健診の受診」のところで受診勧奨のことが書かれているが、市民健診から特定健診に変わり、一般の主婦の方が受診できなくなったことをどうするか（が一つの課題であると思う）。その方々も京都市民であるが、お金を払って受けなさいとっていくのか、広くそのような方々も受けられるようにしていくのか、ということを知りたい。

木村部長： これまで市町村が実施していた基本健康診査が、平成20年度の医療制度改正により特定健診となり、健診そのものの実施主体は各健保の医療保険者となった。京都市としては、京都市国保（の保険者として被保険者）の方に受診していただけるよう取り組んでいる。

あわせて、（検診の）実施そのものは医療保険者であるが、国保であろうと協会けんぽであろうとすべての40歳以上の市民の方に新たな特定健診を受けていただけるように、様々な機会に啓発している。本市国保も含めて国の受診率の目標には届いていない状況である。引き続き、がん検診も含め、検診の受診率向上に努めてまいる。

田中委員： 保険者が、（被保険者本人の）家族を検診するかどうかを決めるが、保険者が受けてはだめだということと受けられないと思う。そういう方に対して京都市は救い上げてくれるのか。

木村部長： 京都府では、医師会と各健康保険が集合契約を結んでいる。その中で、ご本人及び家族について受診できる体制になっているので、そちらで受けていただくことになる。

谷川委員： 私は80歳を超えており、「全体目標」の平均寿命や健康寿命は超えているのだが、「身体活動と運動」のいろいろな事業に参加するようにしている。現在、山科では10種のマシーンを使用した筋トレが実施されており、私も参加しているが、意外と出席者が少なく、いささか問題ではないかと思う。このような有効なプログラム等についてはしっかり周知を図っていただきたい。

木村部長： 前回の10年間では身体活動量が低下しているという結果があったため、ロコモティブシンドロームのための運動プログラムの開発や身近な場所で体を動かしていただくということを含めて、新たな行動指針として今回プランを策定した。

特に保健センターの健康づくり教室でも進める必要があると思っており、広報についても丁寧に市民一人一人に届くように工夫していく。

(2) 新型インフルエンザ等対策行動計画案について

…杉浦課長から資料に沿って説明

3 保健センターを拠点とした個性ある健康づくり事業について

…各保健センターから資料に沿って説明

○ その他

谷川委員： 各区からご報告をいただいたが、「個性ある」の意味は、地域特性を生かしているというニュアンスと理解している。また、事業の対象は大きく分けて乳幼児と高齢者であると思った。

(高齢者という点では)最近、高齢者が増えている中で、子育てと共に孫育ても一つのテーマになると思う。(子育て事業について)直接に母子を対象とするだけでなく、高齢者の参加機会もつくっていただくとありがたい。老人パワーを生かす、または老人の社会参加を促すという意味合いもある。

石田室長： 少子高齢化が進む中で、子育て支援が注目を集めている。母子だけでなく地域で支えることが重要である。「支援」は「指導」ではなく、その人に寄り添うものであり、マンパワーが必要であるため、貴重なご意見として参考にさせていただきたい。

藤田会長： 運営協議会において、各区からの報告も非常に重要だが、(その報告に多くの時間が割かれ)運営協議に関する時間が少ないというのが、何回か参加させていただいている私の感想である。京都市の担当者の方には、運営協議会のあり方についても考えていただきたい。